韓国陸軍3士官学校来校

第107期一般幹部候補生（防大及び一般大卒）課程は、9月2日（水）から3日（木）の2日間、韓国陸軍3士官学校（学校長 少将 朴 鎮熙）の研修を受け入れた。

3士官学校は、韓国陸軍初級将校を育成するため一般大学2年以上の学歴を有する者が一般教養及び軍事訓練に精励している学校であり、本研修は平成20年から始まった。

当日、3士官学校長以下職員及び生徒を防大・一般大卒の候補生が盛大に出迎え、スポーツ交流として、幹部候補生学校の伝統訓練である「剛健綱引き」や「800Mリレー」、「二人三脚リレー」を日韓両国混成のチームに編成して競い合い、親睦を深めた。

その後の夕食会では、韓国語や英語でコミュニケーションを図り、互いの文化や校風を知り、また同じ幹部候補生としての志を共有する貴重な機会となった。

また、今後も絶やすことなく本交流を継続・発展させ、日韓陸軍種の関係強化に寄与することについて、認識を共有した。

幹部候補生学校は、引き続き、強靭な幹部候補生の育成に努めるとともに、日韓両国の架け橋となり、更なる友好と信頼関係の醸成に寄与していく。


両学校長の懇談


スポーツ交流で優勝した候補生へ
日韓の国花をデザインしたTシャツがプレゼントされた


両国混成剛健綱引き


日本語の「絆」と結びつきを意味するハングルの「ユデ」の文字を形作った人文字

心のふるさと 前川原

編集発行
幹部候補生学校
同期生会連合会・OB会
令和8年11月13日

【印刷】香和印刷㈱
久留米市津福本町2320-15
TEL0942-38-3111

ONE TEAM
陸上自衛隊幹部候補生学校

祝 卒業

第62期医科歯科幹部候補生課程
第9期看護科幹部候補生課程
第1期キャリア採用幹部課程

第62期医科歯科幹部候補生課程、第9期看護科幹部候補生課程及び第1期キャリア採用幹部課程は、5月29日（金）、132名に対する教育を修了し、陸上幕僚長（陸将 荒井正芳）立会の下、卒業行事を執り行った。

今年度は、陸上自衛隊として初めてキャリア採用幹部（看護師）が7名入校し、卒業の日を迎えた。

卒業式では石井秀夫 久留米市議会議長、福島功二 防衛医科大学校長、鈴木智史 自衛隊中央病院長、内藤智子 自衛隊福岡病院長等多数の部内外来賓が見守る中、学校長が候補生ひとりひとりに卒業証書を授与した。式辞において学校長は、「卒業後の諸官の活躍は、我々学校職員にとって誇りであり、諸官は、本校において、部下隊員を指揮、指導する初級幹部としての知識及び技能を修得し、その基礎は確立した。これからは、諸官一人一人が個性を大切にして、自らの夢と希望に向かって、自分らしく能力を発揮するとともに、組織に貢献していってもらいたい。」と餞の言葉を贈った。

続いて、荒井正芳 陸上幕僚長から、「自らの役割を全うせよ」「弛むことなく研鑽せよ」の2点が要望され、「諸官らは、衛生科幹部としての使命を果たすにあたり、医師、歯科医師、看護師としての能力を身に付けることは勿論のこと、部隊・隊員の即応性を高めるための広範、かつ、多岐にわたる識能が求められる。これらを修得するにあたり弛まぬ努力の継続は極めて重要である。諸官がこれから修得していく識能は、来るべき事態に備え、戦うための衛生として、救える命を確実に救う事に直結しており、ひいては、陸上自衛隊の任務完遂に大きく寄与することを肝に銘じてもらいたい。」と餞の言葉が贈られた。

卒業式後には記念会食が行われ、ご来賓の方々や学校職員、そして家族に対し感謝の意を伝え、約2ヶ月の教育を終えた候補生は、職員、御家族の盛大な拍手と激励に見送られながら、気持ちを新たに幹部候補生学校を後にした。


卒業証書授与
（キャリア採用幹部）


卒業生答辞
（キャリア採用幹部）


候補生隊編成解組式

祝 卒業

第107期一般幹部候補生
（部内選抜）課程（前段）

第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）は、9月11日（金）、137名に対する教育を修了し、陸上幕僚副長（徳永勝彦 陸将）立会の下、卒業行事を執り行った。

卒業式では福岡県隊友会会長 林田和彦 様、教育訓練研究本部副本部長 濵崎芳夫 陸将補等多数の部内外来賓が見守る中、学校長が候補生ひとりひとりに卒業証書を授与した。式辞において学校長は、「約5ヶ月間の期間にわたり、日々の研鑽、努力を積み重ね、137名全員が卒業の日を迎えることができたことは、学校長はじめ全ての学校職員にとって嬉しく誇らしい。」と労いを述べた後、「卒業後は、陸曹、陸士時代に身をもってフォロワーシップを経験したI課程の特性と、諸官の個性、自分らしさを体現したリーダーシップを遺憾なく発揮し、全国各地の部隊でそれぞれの『ONE TEAM』を新たに築いていってほしい」と餞の言葉を贈った。

続いて、徳永陸上幕僚副長から、「実力を涵養せよ」「積極進取の気概を持て」の2点が要望され、「本日より諸官が歩んでいく道は、平坦な道のりではないかもしれない。しかし、諸官には共に学び合った同期生がいる。その絆は卒業以降も続くものであり、困難に直面した際には心の支えになる。本校卒業以降も、同期の絆を継続し、共に助け支え合う存在であってもらいたい。」と餞の言葉が贈られた。

卒業式後には記念会食が行われ、ご来賓の方々や学校職員、そして家族に対し感謝の意を伝え、約5ヶ月の教育を終えた候補生は、職員、御家族の盛大な拍手と激励に見送られながら、自信と誇りを胸に幹部候補生学校から羽ばたいていった。


学校長賞授与


学校長式辞


見送り

藤山武装走

第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）







第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）は、6月29日（月）、本校の伝統として継承される「藤山武装障害走」を実施した。

日本一過酷なコースとして、数多くの天然・人工障害が行く手を阻む中、確実に障害を克服し、息を切らしながら、実弾射撃及び手榴弾投擲を行い、極限状態で冷静沈着な判断力・集中力と戦闘行動能力を遺憾なく発揮し、難コースを走破した。

高良山登山走検定に続き2冠となった、1位の青木紀克候補生（中部方面航空隊）は、「高良山走に続き二冠達成出来たことは素直に嬉しく思っている。区隊のみんなと頑張って練成してきた成果を出すことが出来て良かった。」と話した。

候補生は藤山武装障害走を通じ幹部自衛官として必要な総合的な戦技能力及び剛健の精神に基づく不撓不屈の気力・体力を涵養した。

職種部隊実習

第107期一般幹部候補生（防大卒・一般大卒）課程







第107期一般幹部候補生（防大卒及び一般大卒）課程は、7月13日（月）から25日（土）までの間、職種部隊等実習を実施した。

本実習は、令和7年度から開始し、各師・旅団等において師団長・旅団長の訓示を賜り、職種部隊等の研修を通じて、陸上自衛隊が果たす役割を広く理解させるとともに、職種の実情について概要を認識させ、今後の修学目標の確立及び職種選択の資とさせることを目的として実施している。

参加した候補生は、「実際に隊員が働いている姿や装備品を間近で見て、漠然としていた職種に対するイメージがいくつか具体的になった。職種の魅力を伝えることの大変さにも触れて、感謝と尊敬の気持ちを持った。」と述べた。

総合訓練

第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）







第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）は、8月19日（水）から23日（日）の間、本課程教育の集大成としての総合訓練を行った。

訓練の開始にあたり、統裁官（学生隊長 鏡森直樹一等陸佐）から訓示を受けた候補生達は、入校時から積み上げてきた状況判断力、実員指揮能力及び体力・気力を最大限に発揮し最後まで任務を完遂する決意のもと訓練に臨んだ。

約100㎞の道のりを2昼夜をかけて徒歩行進した後、演習場において敵先遣部隊に対する陣地攻撃を一連の状況下で実施し、困難な状況においても、任務を完遂する責任感、小部隊のリーダーとしての実員指揮能力や状況判断能力を向上して大きな自信を得ることができた。

高良山登山走

第107期一般幹部候補生（防大卒・一般大卒）課程







第107期一般幹部候補生（防大及び一般大卒）課程は、9月8日（火）、本校の伝統行事の一つである高良山登山走を実施した。

候補生は8コ組に分かれ、清々しい秋晴れの中、幹部候補生学校から高良大社までの距離5．6㎞、標高差156mのコースに挑んだ。

候補生たちは、幹部候補生学校OB会、隊友会、家族会、偕行会、候補生家族等約100名の激励を受け、日頃の練成の成果を十分に発揮し、厳しい上り坂にも負けず粘り強く全員が合格を目指し激走した。

猛暑の続く過酷な練成期を区隊一丸となって乗り越え、共に励ましあい助け合い、この高良山登山走を通じて候補生の個々の気力・体力の充実はもとより、区隊の団結がより一層強化された。

大矢野原訓練

第107期一般幹部候補生（防大卒・一般大卒）課程







第107期一般幹部候補生（防大卒及び一般大卒）課程は9月14日（月）から24日（木）の間、大矢野原訓練を実施した。

分隊攻撃、前衛分隊などの攻撃課目では判断力を、分隊防御では実行力といった資質を涵養、潜入課程においては実戦的な環境下での攻撃訓練を体験した。また、84RR、LAM、射撃、HMGなどの各職種共通の部隊装備火器射撃においては、将来部隊において小隊長として射撃訓練を行うために必要な安全管理、射場勤務要領を学んだ。これまでの高良台訓練や大野原訓練で積み上げ、更なる経験と自信を得ることが出来、今後の第2回大矢野原訓練、総合訓練への足がかりを得ることができた。

祝　入校

第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（後段）


陸幕副長訓示


着校時の様子


学校長式辞


着校報告


祝賀会食



入校式

第107期一般幹部候補生課程（後段）260名の入校式を挙行した。

式は、久留米自衛隊協力会会長（喜多村浩司様）、陸上幕僚副長（徳永勝彦陸将）等多数の部内外来賓の立会のもと、入校生家族及び学校職員が出席し、厳粛に執り行われた。

香川学校長は、式辞において「本校での約5ヶ月間の教育訓練は決して容易なものではないと思う。きつくて辛い時が必ず到来する。そんな時は、区隊長、付教官、助教等を信じ、ベストを尽くして努力を継続して貰いたい。今まで育てていただいたご家族、原隊の上司、同僚、部下への感謝を忘れず、そして、困難から決して逃げることなく、同期とともに『ONE TEAM』となって挑戦を継続してもらいたい。」と歓迎の言葉を贈った。

続いて、陸上幕僚副長から「幹部自衛官としての使命感を確立せよ。」「主体的に修学せよ。」の二点の要望事項と、「全力で修養に励むと同時に利他心をもって同期生と切磋琢磨し、揺るぎない絆を構築してもらいたい。」と期待の言葉が贈られた。

北は北海道名寄駐屯地から、南は沖縄県石垣駐屯地まで、全国から集った候補生達は、これから約5ヶ月間、初級幹部としての基礎を築くため、ここ尚武の地、久留米で修養に励み、同期とともに『ONE TEAM』となり切磋琢磨することとなる。

陸上幕僚長初度視察

令和8年9月7日（月）、荒井正芳陸上幕僚長の視察を受け、日夜教育訓練に励む幹部候補生及び学校職員の双方に対し、直接の激励を頂きました。

陸上幕僚長は教育訓練や校務運営基盤の現況を把握されるとともに、学校職員に対して「幹部候補生教育は重要であり、職員の懸命な尽力に感謝する。引き続き『ONE TEAM』となり強靭な幹部候補生の育成に努めよ」と訓示され、各視察の現場においては労いの言葉を頂きました。

また、卒業を直前に控えた部内選抜課程の候補生に対しては、「現場のリーダーとして、明朗であること」を要望され、卒業後の飛躍にエールを贈られた。

陸上幕僚長を受け、学校職員及び候補生一同、改めてその職責を自覚し、強靭な幹部候補生育成及び、候補生職員の幸福追求に向け「ONE TEAM」で取り組む決意を新たにしました。


学校職員との記念撮影


教育視察（射撃予習）


部内選抜課程への激励

候補生の声

第107期一般幹部候補生（部内選抜）課程（前段）
第12施設群
陸曹長　藤松　憲吾



令和8年3月29日に桜咲く中、幹部候補生学校に入校し約5か月が経過しようとしています。まもなく卒業となりますが、今振り返ると1日、1週間、1か月が過去に参加したどの教育よりも早く感じています。

私は、1等陸曹37歳で入校しましたが、年齢の引き上げによる同世代の同期も多く存在し、特に苦しい時の心の支えとなりました。

教育の中で特に印象深い事項として、練成期の7月中旬から下旬に実施された大矢野原訓練です。小隊防御準備～防御戦闘（3夜4日）、前衛小隊、小隊攻撃及び50㎞徒歩行進訓練を実施し、疲労困憊の中、区隊同期で苦しい時こそ団結し、時には士気を高揚し規律を維持しつつ任務完遂できました。この際、小隊防御準備（2夜3日）における小隊長職を実施し、小隊長として33名の同期を率いて中隊・小隊の使命達成の重圧が重くのしかかっていたのを覚えていますが、これまでの戦術教育及び施設課目で学んだ知識を活かし、小隊長として作業工程管理、小隊の隊力運用、不測事態対処及び現場指導を適時適切に実施し、4区隊34名全員の努力の結集で使命を達成することができました。

また、区隊長要望事項「不撓不屈」は、単なる体力のみならず幹部自衛官に必要な心の強さも含まれており、区隊長が常々区隊に指導していた指揮の要訣の実践、その中での重視事項「明確な企図の明示」を念頭において日常起居、3役勤務及び野外訓練を通じて、より企図の明示の重要性を認識し、自分自身も成長できたと強く感じています。

濃密なこの5か月間は、今後の幹部自衛官人生の原点であり、自己の強点をより伸ばすとともに弱点を改善して、今後の部隊勤務に活かすとともに、部隊の核心となれるよう、幹部自衛官のあるべき姿を常に追求し邁進していきます。

災害派遣で活躍する卒業生

令和8年熊本地震において、一昨年度、本校を卒業した川原3尉（第8後方支援連隊（北熊本駐屯地））が災害派遣に出動し、被災地で入浴支援の指揮を完遂しました。

【川原3尉のコメント】

「卒業して2年後にまさか自分が災害派遣の長となり派遣されるとは候補生時代には想像もしていなかったです。部隊配置されてからは、上司や部下に支えていただき、日々任務を遂行できています。」

被災者に寄り添い部隊を統率する若き幹部の姿は、候補生が目指すべき「リアルな未来像」であり、この活躍を励みに、在校する候補生が成長を遂げ、自信を持って部隊に赴任できるよう指導してまいります。



インタビュー時の川原3尉


候補生時代の川原3尉

防衛大臣感謝状贈呈



久留米自衛隊協力会女性部会の古賀京子会長が、長年の候補生教育及び防衛基盤育成へのご尽力により栄える「令和八年度防衛大臣感謝状」を受賞されました。平素より本校の教育訓練に対する深いご理解と、修練に励む候補生への温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。学校職員・候補生一同、ご受賞を心よりお祝い申し上げます。